

令和七年茨城県支部俳句大会成績（事前投句）

日時 令和七年四月二十二日

場所 水戸市・茨城県立青少年会館

本部選者 坂内 佳禰（俳人協会評議員）

坂内佳禰特選（本部選者）

百段の上のあをぞら雛まつり

和田ゑみこ

戻り来し恋猫の耳まだ尖る

小木津閨子

種袋振るやかがひの山淡く

由木 まり

大竹多可志特選

肩書のなき父の背や豆を撒く

笹川 昌子

あの日から飯の住まひや春の海

山本 慶子

白寿まで生くと決めて七日粥

小山 五浪

笹川昌子特選

居酒屋の余寒の隅を愛でにけり

平野 悦子

落ちてより枯葉に音の生まれけり

石塚 一夫

芽起しの雨のひと日となりにけり

小川みのる

天下井誠史特選

二月尽身の門を締め直す

小木津閨子

利休の忌越えてはならぬ線のあり

小貫 清美

白寿まで生くと決めて七日粥

小山 五浪

桜井筑蛙特選

ひたすらに輪を描くとんび寒の明け

永井 弘子

ものの芽やまた新しき朝が来る

中村 孝道

質問の途切れぬ幼雲の峰

坂場 俊仁

小川みのる特選

立哨の教師の傘に花の雨

橋本 和子

飛田伸夫特選

古民家の裸電球楯火爆づ

永山 憲子

坂場俊仁特選

工房の薪積みなほす寒の明け

山本 慶子

永山憲子特選

茶柱のゆらゆらと春遠からじ

和田ゑみこ

矢須恵由特選

坂下りてのぼる日にち春を待つ

高井まさ江

岡崎 桂子特選

うすらひやしづかに話す橋の上

大西 朋

松浦敬親特選

釣釜の湯気ふつくらとふつくらと

幡谷 哲子

草野 大作特選

動かざる石を囃して春の水

山崎マサ子

大山とし子特選

種袋振るやかがひの山淡く

由木 まり

大西朋特選

お狐の新的前掛け梅ふふむ

北浦 残月

清水仙里特選

老いてなほ姉妹ほがらか雛飾る

大島 良子

平野悦子特選

春一番絵馬からからと笑ひをり

浅野とし子

和田ゑみこ特選

春野ゆく歩幅大きくなりにつけり

久保田至誠

井川水衛特選

ふるさとは遠のくばかり下萌ゆる

東海林茂美

永井弘子特選

春星やまだ銭湯の残る町

大西 朋

入選作品（1位～18位）

百段の上のあをぞら雛まつり

和田ゑみこ

工房の薪積みなほす寒の明け

山本 慶子

ものの芽やまた新しき朝が来る

中村 孝道

芽起しの雨のひと日となりにつけり

小川みのる

もらひてのつかぬ子猫の大欠伸
梅が香や造り酒屋の長屋門
残されし日々を大事に母子草
少年の手綱捌きや風光る
種袋振るやかがひの山淡く
動かざる石を囃して春の水
古民家の裸電球楯火爆づ
春野ゆく歩幅大きくなりにつけり
戻り来し恋猫の耳まだ尖る
老いてなほ姉妹ほがらか雛飾る
ふるさとは遠のくばかり下萌ゆる
ほころびを縫ふ一針や春の宵
枯蓮のへの字くの字に影つくる
蘆の角釣果見せあふ船溜り
受け答へはきはき出来て卒園す
雉鳴いて朝の空気の引き締まる

山崎マサ子
北浦 残月
道口 育子
北郷 三雄
由木 まり
山崎マサ子
永山 憲子
久保田至誠
小木津閨子
大島 良子
東海林茂美
九条 道子
石塚 一雄
飛田 伸夫
大島 良子
岡崎 桂子

令和七年茨城県支部俳句大会成績（当日句）

坂内佳禰特選

花しぐれ女人行者のこゑすなり
夜桜や舟に乗り込む囃子方
いちめんのはなびらいちめんのひかり

笹川 昌子
幡谷 哲子
藤本 明美

笹川昌子特選

いつせいに漕ぎ出すカヌー木の芽晴
八重桜まだ咲きゐたり薬医門
夜桜や舟に乗り込む囃子方

杉山 昭風
平野 悦子
幡谷 哲子

天下井誠史特選

水戸学の尽きぬ流れや青き踏む
朽舟は落花の枢水明り
乳飲み子へ母のまなざし竹の秋

道口 育子
小木津閨子
眞家 薺風

小川みのる特選

蝶の昼独り散歩の身の軽し

小泉 光子

飛田伸夫特選

毎日が学びの余生花は葉に

矢須 恵由

坂場俊仁特選

子供病院はや翻る鯉のぼり

海老原悠子

永山憲子特選

外壁の塗装の足場夏燕

飛田 伸夫

矢須恵由特選

四日果つ始まりし縁切れし縁

永山 憲子

大山とし子特選

夜桜や舟に乗り込む囃子方

幡谷 哲子

平野悦子特選

水戸学の尽きぬ流れや青き踏む

道口 育子

和田ゑみこ特選

八重桜まだ咲きゐたり薬医門

平野 悦子

永井弘子特選

毎日が学びの余生花は葉に

矢須 恵由

入選句（1位～16位）

毎日が学びの余生花は葉に

矢須 恵由

水戸学の尽きぬ流れや青き踏む

道口 育子

八重桜まだ咲きゐたり薬医門

平野 悦子

いつせいに漕ぎ出すカヌー木の芽晴

杉山 昭風

ポケットの着信音や春の昼

飛田 伸夫

野遊びや山が山押す飛驒の郷

浅野とし子

なだめては使ふ手足や花の冷え

永井 弘子

鳥帰る時に追ひ風向かひ風

山本 慶子

夜桜や舟に乗り込む囃子方

幡谷 哲子

子供病院はや翻る鯉のぼり

四日果つ始まりし縁切れし縁

葉桜となりて周りに溶け込み

たつぷりと雲を浮かべて代田澄む

花しぐれ女人行者のこゑすなり

外壁の塗装の足場夏燕

乳飲み子へ母のまなざし竹の秋

海老原悠子

永山 憲子

井川 水衛

小川みのる

笹川 昌子

飛田 伸夫

眞家 薺風